

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

1. 医薬品の本質に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 人体に対して使用されない医薬品は、人の健康に影響を与えることはない。
- b 医薬品が人体に及ぼす作用は、複雑、かつ、多岐に渡るが、そのすべては解明されている。
- c 医薬品医療機器等法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならない旨を定めている。
- d 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みとなっている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

2. 医薬品のリスク評価に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ヒトを対象とした臨床試験により求められる50%致死量をLD₅₀といい、薬物の毒性の指標として用いられる。
- b 医薬品に対しては、製造販売後の調査及び試験の実施の基準としてGood Vigilance Practice (GVP) が制定されている。
- c 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量－反応関係）に基づいて評価される。
- d 新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化（ハーモナイゼーション）制定の流れのなかで、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿って、単回投与毒性試験、反復投与毒性試験などの毒性試験が厳格に実施されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

3. 医薬品の副作用に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般用医薬品では、重大な副作用の兆候が現れたときでも、使用中断による不利益を回避するため、使用を継続することが必要である。
- b 副作用は、血液や内臓機能への影響のように、明確な自覚症状として現れないこともある。
- c 医薬品を使用する人が、副作用をその初期段階で認識することにより、副作用の種類に応じて速やかに適切に処置し、又は対応し、重篤化の回避が図られることが重要となる。
- d 世界保健機関（WHO）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

4. アレルギー（過敏反応）に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a アレルギーには体質的・遺伝的な要素があり、アレルギーを起こしやすい体質の人や、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。
- b 免疫機構が過敏に反応して、体の各部位に生じる炎症等の反応をアレルギー症状という。
- c 一般的にあらゆる物質によって起こり得るものであるため、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得るものである。
- d 医薬品にアレルギーを起こしたことがない人は、病気等に対する抵抗力が低下している状態でもアレルギーを起こすことはない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	正

5. 医薬品の不適正な使用と副作用に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 適正な使用がなされる限りは安全かつ有効な医薬品であっても、乱用された場合には薬物依存を生じることがある。
- b 医薬品の乱用の繰り返しによって、慢性的な臓器障害等を生じるおそれがある。
- c 人体に直接使用されない医薬品についても、使用する人の誤解や認識不足によって、使い方や判断を誤り、副作用につながることもある。
- d 医薬品は、みだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取するといった乱用がなされると、過量摂取による急性中毒等を生じる危険性が高くなる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

6. 医薬品の相互作用に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a かぜ薬、鎮静薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することは少ないため、これらの薬効群に属する医薬品の併用を避ける必要はない。
- b 相互作用には、医薬品が吸収、分布、代謝又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- c 複数の医薬品を併用したときに、医薬品の作用が増強する場合のことをいうのであって、作用が減弱する場合には相互作用とはいわない。
- d 相互作用を回避するには、通常、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えなければならない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

7. 医薬品と食品との飲み合わせに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 外用薬や注射薬であれば、食品によって、医薬品の作用や代謝が影響を受ける可能性はない。
- b 総合感冒薬にはカフェインが含まれているものがあり、水ではなくコーヒーで飲むことでカフェインの過剰摂取になることがある。
- c アルコールは、主として肝臓で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が低下していて、肝臓で代謝される医薬品が通常よりも代謝されにくくなっている。
- d 食品（ハーブ等）として流通している生薬成分が、医薬品の作用に影響を与えることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

8. 小児等が医薬品を使用する場合に留意すべきことに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 小児は、血液脳関門が未発達であるため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を生じやすく、加えて、肝臓及び腎臓の機能も未発達であるため、副作用がより強く出ることがある。
- b 5歳未満の幼児に使用される錠剤やカプセル剤は、形状が幼児向けに作られているため、服用時に喉につかえることはない。
- c 乳児向けの用法用量が設定されている医薬品であっても、乳児は医薬品の影響を受けやすく、使用の適否が見極めにくいため、一般用医薬品による対処は最小限にとどめるのが望ましい。
- d 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が長いため、服用した医薬品の吸収率が相対的に高い。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

9. 高齢者に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」（平成29年6月8日付け薬生安発0608第1号厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課長通知別添）は、おおよその目安として75歳以上を「高齢者」としている。
- b 年齢のみから、一概にどの程度、副作用のリスクが増大しているかを判断することは難しい。
- c 一般に生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が現れにくくなる。
- d 喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥下障害）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

10. 妊婦又は妊娠していると思われる女性に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般用医薬品では、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が困難であるため、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。
- b 便秘薬は、配合成分やその用量によっては、流産や早産を誘発するおそれがあるため、十分注意して適正に使用するか、又は使用そのものを避ける必要がある。
- c ビタミンB₂含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まる。
- d 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組みとして、血液－胎盤関門がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

11. 医療機関で治療を受けている人等が医薬品を使用する場合に留意すべきことに関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 生活習慣病等の慢性疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品を使用することで症状が悪化したり、治療が妨げられることもある。
- b 過去に医療機関で治療を受けていた（今は治療を受けていない）という人に対して、購入しようとする一般用医薬品についての情報提供を行う場合には、どのような疾患にいつ頃かかっていたのかは、特に注意する必要はない。
- c 購入しようとする医薬品を使用することが想定される人が医療機関で治療を受けている場合には、疾患の程度やその医薬品の種類等に応じて、問題を生じるおそれがあれば使用を避けることができるよう情報提供がなされることが重要である。
- d 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人について、登録販売者が一般用医薬品との併用の可否を判断することが義務づけられている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

12. プラセボ効果に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じること
をいい、偽薬効果ともいわれる。
- b 一般用医薬品の使用によってプラセボ効果と思われる反応や変化がもたらされた
ときは、それを目的として使用を継続すべきである。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都
合なもの（副作用）とがある。
- d 時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）は、関与していないと考えられ
ている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

13. 医薬品の品質に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品は、適切な保管・陳列を行えば、経時変化による品質の劣化は起こらない。
- b 一般用医薬品は、購入された後、すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備
薬として購入されることも多いことに留意して、販売等がなされることが重要である。
- c 医薬品医療機器等法において、その品質が承認等された基準に適合しない医薬品、
その全部又は一部が変質・変敗した物質から成っている医薬品の販売は、禁止されて
いる。
- d 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されており、配合されている成分（有効成
分及び添加物成分）は、高温や多湿、光（紫外線）等によって品質の劣化（変質・変
敗）を起こしにくいものが多い。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

14. 次のうち、一般用医薬品の役割として、**誤っているもの**を1つ選びなさい。

- 1 重度な疾病に伴う症状の改善
- 2 生活の質（QOL）の改善・向上
- 3 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防（科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。）
- 4 健康の維持・増進

15. セルフメディケーション及び一般用医薬品に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a セルフメディケーションの主役は、一般の生活者である。
- b 近年、急速な高齢化の進展や生活習慣病の増加など疾病構造の変化、生活の質の向上への要請等に伴い、専門家によるアドバイスなしで、身近にある一般用医薬品を利用する「セルフメディケーション」の考え方がみられるようになってきた。
- c 一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、医薬品を使用する人に高熱や激しい腹痛がある場合等、症状が重いときであっても、まずは一般用医薬品を使用するよう勧めることが適切である。
- d 一般用医薬品で対処可能な症状の範囲は、乳幼児や妊婦等、医薬品を使用する人によって変わる場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

16. 次の記述は、医薬品医療機器等法第4条第5項第4号で定義されている一般用医薬品に関するものである。() にあてはまる字句として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が(a)のものであつて、(b) から提供された情報に基づく(c) の選択により使用されることが目的とされているもの(要指導医薬品を除く。)をいう。

	a	b	c
1	著しくない	医薬品製造販売業者	薬剤師その他の医薬関係者
2	著しい	医薬品製造販売業者	薬剤師その他の医薬関係者
3	著しくない	薬剤師その他の医薬関係者	需要者
4	著しい	薬剤師その他の医薬関係者	需要者
5	著しくない	医薬品製造販売業者	需要者

17. 一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品の販売に従事する専門家からの情報提供は、説明内容が購入者等にどう理解されたかなどの実情を把握しながら行う必要はなく、専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけで十分である。
- b 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合には、コミュニケーションを図る必要はない。
- c 購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮することが重要である。
- d 登録販売者は、第一類医薬品、第二類医薬品及び第三類医薬品の販売、情報提供等を担う観点から、生活者のセルフメディケーションを支援するという姿勢で臨むことが基本となる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

18. サリドマイド及びサリドマイド訴訟に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a サリドマイドの血管新生を妨げる作用は、その光学異性体のうち、一方の異性体（*S*体）のみが有する作用であり、もう一方の異性体（*R*体）を分離して製剤化すれば、催奇形性を避けることができる。
- b 1961年11月、西ドイツ（当時）のレンツ博士がサリドマイド製剤の催奇形性について警告を発し、日本では、同年中に速やかに販売停止及び回収措置が行われた。
- c サリドマイドによる薬害事件をきっかけとして、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。
- d サリドマイド製剤は、当時、貧血用薬として承認された。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	誤

19. HIV訴訟に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 国及び都道府県を被告として、大阪地裁、東京地裁で提訴された。
- b 血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）が混入した原料血漿から製造された免疫グロブリン製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- c この訴訟の和解を踏まえ、国は、HIV感染者に対する恒久対策として、エイズ治療・研究開発センター及び拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の様々な取り組みを推進している。
- d この訴訟を契機に、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られた。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

20. 次の記述は、クロイツフェルト・ヤコブ病（C J D）及びC J D訴訟に関するものである。（ ）にあてはまる字句として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。
なお、同じ記号の（ ）には同じ字句が入る。

脳外科手術等に用いられていた（ a ）乾燥硬膜を介してクロイツフェルト・ヤコブ病（C J D）に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。C J Dは、タンパク質の一種である（ b ）が原因とされ、（ b ）が脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。

本訴訟を踏まえ、生物由来製品の安全対策強化、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による生物由来製品による（ c ）制度の創設等がなされた。

	a	b	c
1	ヒト	プリオン	医薬品副作用被害救済
2	ウシ	アミロイドβ	感染等被害救済
3	ヒト	アミロイドβ	医薬品副作用被害救済
4	ウシ	プリオン	医薬品副作用被害救済
5	ヒト	プリオン	感染等被害救済

Ⅱ 人体の働きと医薬品

21. 鼻及び耳に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a においに対する感覚は、非常に鋭敏であるが順応を起こしやすく、同じにおいを継続して嗅いでいると、次第にそのにおいを感じなくなる。
- b 副鼻腔に入った埃等の粒子は、粘液に捉えられて線毛の働きによって鼻腔内へ排出される。
- c 内耳にある鼓室は、耳管という管で鼻腔や咽頭と通じている。
- d 中耳は、聴覚器官である蝸牛と、平衡器官である前庭の2つの部分からなる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

22. 目に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 水晶体は、その周りを囲んでいる毛様体の収縮・弛緩によって、遠くの物を見るときは丸く厚みが増し、近くの物を見るときには扁平になる。
- b 視細胞が光を感じる反応にはビタミンDが不可欠であるため、ビタミンDが不足すると夜間視力の低下（夜盲症）を生じる。
- c 結膜の充血では、白目の部分だけでなく眼瞼の裏側も赤くなる。
- d 涙器は、涙液を分泌する涙腺と、涙液を鼻腔に導出する涙道からなり、涙腺は上眼瞼の裏側にある分泌腺で、血漿から涙液を産生する。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

23. 膵臓に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 胃の前下部に位置する細長い臓器で、膵液を胃へ分泌する。
- b 膵液は、酸性で、胃で弱アルカリ性となった内容物を中和する。
- c 炭水化物、タンパク質、脂質のそれぞれを消化するすべての酵素の供給を担っている。
- d 消化腺であるとともに、血糖値を調節するホルモン（インスリン及びグルカゴン）等を血液中に分泌する内分泌腺でもある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

24. 循環器系に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 脾臓の主な働きは、脾臓内を流れる血液から古くなった赤血球を濾し取って処理することである。
- b リンパ液の流れは、主に平滑筋の収縮によるものであり、流速は、血流に比べて緩やかである。
- c 組織液は、組織中の細胞に酸素や栄養分を供給して二酸化炭素や老廃物を回収したのち、そのほとんどがリンパ管へ入ってリンパ液となるが、一部は毛細血管で吸収されて血液に還元される。
- d リンパ管には逆流防止のための弁があって、リンパ液は一定の方向に流れている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

25. 呼吸器系に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 鼻腔内に物理的又は化学的な刺激を受けると、反射的にくしゃみが起きて激しい呼吸とともに刺激の原因物を排出しようとする。
- b 咽頭の後壁にある扁桃は、リンパ組織が集まってできており、気道に侵入してくる細菌、ウイルス等に対する免疫反応が行われる。
- c 喉頭から肺へ向かう気道が左右の肺へ分岐するまでの部分を気管支といい、そこから肺の中で複数に枝分かれする部分を肺泡という。
- d 肺泡と毛細血管を取り囲んで支持している組織を間質という。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

26. 消化器系に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 消化には、消化腺から分泌される消化液による化学的消化と、咀嚼（食物を噛み、口腔内で粉砕すること）や消化管の運動による機械的消化とがある。
- b 歯の齲蝕とは、口腔内の常在細菌がタンパク質から産生する酸で歯が脱灰されることによって起こる歯の欠損のことであり、象牙質に達すると、神経が刺激されて、歯がしみたり痛みを感じるようになる。
- c 食道の上端と下端には括約筋があり、胃の内容物が食道や咽頭に逆流しないように防いでいる。
- d 小腸のうち十二指腸に続く部分の、概ね上部70%が空腸、残り30%が回腸であるが、明確な境目はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

27. 腎臓及び副腎に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 腎臓には、心臓から拍出される血液の1/5～1/4が流れている。
- b 腎臓は、血圧を一定範囲内に保つ上で重要な役割を担っている。
- c 副腎は、皮質と髄質の2層構造からなる。
- d 副腎皮質では、自律神経系に作用するアドレナリン（エピネフリン）とノルアドレナリン（ノルエピネフリン）が産生・分泌される。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	誤	誤

28. 骨格系及び筋組織に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 骨には、身体各部の支持機能、臓器保護機能、造血機能などがある。
- b 骨の破壊（骨吸収）と修復（骨形成）は、骨が成長するまで繰り返され、成長した後は停止する。
- c 骨格筋は、筋線維を顕微鏡で観察すると横縞模様（横紋）が見えるので横紋筋とも呼ばれ、収縮力が強く、自分の意識どおりに動かすことができる随意筋である。
- d 筋組織は、神経からの指令によって収縮するが、随意筋は自律神経系で支配されているのに対して、不随意筋は体性神経系に支配されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

29. 血液に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a アルブミンは、血液の浸透圧を保持する働きがあるほか、ホルモンや医薬品の成分等と複合体を形成して、それらが血液によって運ばれるときに代謝や排泄を受けにくくする。
- b ヘモグロ빈は、酸素が少ないところで酸素分子と結合し、酸素と二酸化炭素が多いところで酸素分子を放出する性質がある。
- c 白血球のうち好中球は、最も数が少なく、白血球の約5%であるが、血管壁を通り抜けて組織の中に入り込むことができ、感染が起きた組織に遊走して集まり、細菌やウイルス等を食作用によって取り込んで分解する。
- d 血管の損傷部位では、血小板から放出される酵素によって血液を凝固させる一連の反応が起こり、血漿タンパク質の一種であるフィブリノゲンが傷口で重合して線維状のフィブリンとなる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

30. 消化酵素に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 唾液には、デンプンをデキストリンや麦芽糖に分解する消化酵素（プチアリン。唾液アミラーゼともいう。）が含まれる。
- b 胃から分泌されるペプシノーゲンは、胃酸によってタンパク質を消化する酵素であるペプシンとなり、胃酸とともに胃液として働く。
- c トリプシンは、胃で半消化されたタンパク質（ペプトン）をさらに細かく消化する酵素である。
- d 脂質（トリグリセリド）は、消化酵素（マルターゼ）の作用によって分解を受けるが、大腸粘膜の上皮細胞で吸収されると脂質に再形成される。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	正	誤

31. 交感神経系及び副交感神経系に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 概ね、交感神経系は体が食事や休憩等の安息状態となるように働き、副交感神経系は体が闘争や恐怖等の緊張状態に対応した態勢をとるように働く。
- b 交感神経の節後線維の末端から放出される神経伝達物質はアセチルコリンであり、副交感神経の節後線維の末端から放出される神経伝達物質はノルアドレナリンである。
- c 交感神経系と副交感神経系は、互いに拮抗して働き、一方が活発になっているときには他方は活動を抑制して、効果を及ぼす各臓器・器官（効果器）を制御している。
- d 目は、交感神経系が活発になると瞳孔が散大し、副交感神経系が活発になると瞳孔が収縮する。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

32. 医薬品の剤形及びその特徴に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 口腔内崩壊錠は、口の中の唾液で速やかに溶ける工夫がなされているため、水なしで服用することができる。
- b 経口液剤は、有効成分の血中濃度が上昇しやすいため、習慣性や依存性がある成分が配合されているものの場合、本来の目的と異なる不適正な使用がなされることがある。
- c カプセル剤は、カプセル内に散剤や顆粒剤、液剤等を充填した剤形であり、内服の医薬品として広く用いられているが、カプセルの原材料であるゼラチンはブタなどのタンパク質を主成分としているため、ゼラチンに対してアレルギーを持つ人は使用を避けるなどの注意が必要である。
- d クリーム剤は、有効成分が適用部位に留まりやすいという特徴があり、適用部位を水から遮断したい場合に用いる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

33. 口腔粘膜からの吸収によって効果を発揮する医薬品の成分として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a アスピリン
- b アセトアミノフェン
- c ニコチン
- d ニトログリセリン

- 1 (a、b)
- 2 (a、c)
- 3 (b、d)
- 4 (c、d)

34. 医薬品の吸収及び分布に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般に、消化管からの吸収は、濃度が高い方から低い方へ受動的に拡散していく現象である。
- b 消化管での吸収量や吸収速度は、消化管内容物や他の医薬品の作用によって影響を受ける。
- c 鼻腔の粘膜に適用する一般用医薬品の中には、全身作用を目的として製造販売されているものがある。
- d 有効成分が皮膚から浸透して体内の組織で作用する医薬品の場合、浸透する量は皮膚の状態、傷の有無やその程度などによって影響を受ける。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

35. 医薬品の代謝及び排泄に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品の有効成分が代謝を受けると、作用を失ったり、作用が現れたり、あるいは体外へ排泄されやすい水溶性の物質に変化する。
- b 排泄とは、代謝によって生じた物質（代謝物）が尿等で体外へ排出されることであり、有効成分は未変化体のままで、あるいは代謝物として、主に、腎臓から尿中へ、肝臓から胆汁中へ、又は肺から呼気中へ排出される。
- c 経口投与された医薬品の多くは、その有効成分が消化管の毛細血管から血液中に移行し、その後全身循環に入る前に、門脈を経由して、肝臓に存在する酵素の働きで代謝を受ける。
- d 多くの有効成分は、血液中で血漿タンパク質と結合して複合体を形成しているが、薬物代謝酵素の作用により代謝されてしまう。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

36. ショック（アナフィラキシー）に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 生体異物に対する遅延型のアレルギー反応の一種である。
- b 医薬品が原因物質である場合、以前にその医薬品によって蕁麻疹等のアレルギーを起こしたことがある人では、起きる可能性が低い。
- c 一般に、顔や上半身の紅潮・熱感、蕁麻疹、手足のしびれ感、吐きけ、顔面蒼白、冷や汗、胸苦しさなど、複数の症状が現れる。
- d 一旦発症すると病態は急速に悪化することが多く、適切な対応が遅れるとチアノーゼや呼吸困難等を生じ、死に至ることがある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

37. 医薬品の副作用である間質性肺炎に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般的に、医薬品の使用開始から1～2ヶ月程度で起きることが多い。
- b 息切れ・息苦しさ等の呼吸困難、空咳、発熱等の症状を呈する。
- c かぜや気管支炎の症状と区別することは容易である。
- d 悪化すると肺線維症に移行することがある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

38. 医薬品による肝機能障害に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 有効成分又はその代謝物による直接的肝毒性が原因で起きる中毒性のものがある。
- b 有効成分に対する抗原抗体反応が原因で起きるアレルギー性のものがある。
- c 主な症状には、全身の倦怠感、黄疸等がある。
- d 漫然と原因と考えられる医薬品を使用し続けると、不可逆的な病変（肝不全）を生じ、死に至ることもある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	正	正

39. 消化器系に現れる副作用に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a イレウス様症状は、医薬品の作用によって腸管運動が麻痺して、腸内容物の通過が妨げられ、激しい腹痛やガス排出(おなら)の停止、嘔吐、腹部膨満感を伴う著しい便秘が現れる。
- b 消化性潰瘍は、胃や十二指腸の粘膜組織が傷害されて、粘膜組織の一部が粘膜筋板を超えて欠損する状態である。
- c 消化性潰瘍は、悪化すると、腸内細菌の異常増殖によって全身状態の衰弱が急激に進行する可能性がある。
- d 浣腸剤や坐剤の使用によって現れる一過性の症状に、肛門部の熱感等の刺激、異物の注入による不快感、排便直後の立ちくらみなどがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

40. 皮膚に現れる副作用に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 薬疹とは、医薬品によって引き起こされるアレルギー反応の一種で、発疹・発赤等の皮膚症状を呈する場合をいう。
- b 薬疹が現れた場合に、痒み等の症状に対して、一般の生活者が自己判断で対症療法を行うことは、原因の特定を困難にするおそれがあるため、避けるべきである。
- c 医薬品による接触皮膚炎では、原因となる医薬品の使用の中止後、1週間程度で症状が治まり、再びその医薬品に触れても再発することはない。
- d 光線過敏症の症状は、医薬品が触れた部分から全身へ広がることはない。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1 (a、b) | 2 (a、c) | 3 (b、d) | 4 (c、d) |
|---------|---------|---------|---------|

Ⅲ 薬事に関する法規と制度

41. 次の記述は、医薬品医療機器等法第57条第1項の条文である。（ ）にあてはまる字句として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

医薬品は、その全部若しくは一部が（ a ）物質からなっているためにその医薬品を（ b ）危険なものにするおそれがある物とともに、又はこれと同様のおそれがある容器若しくは被包（内袋を含む。）に収められていてはならず、また、医薬品の容器又は被包は、その医薬品の（ c ）を誤らせやすいものであつてはならない。

	a	b	c
1	有毒若しくは有害な	医療上	有効性及び安全性
2	変質若しくは変敗した	保健衛生上	使用方法
3	有毒若しくは有害な	保健衛生上	使用方法
4	変質若しくは変敗した	医療上	有効性及び安全性
5	有毒若しくは有害な	医療上	使用方法

42. 医薬品の定義と範囲に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 殺虫剤や器具用消毒薬のように、人の身体に直接使用されないものは、医薬品には含まれない。
- b 厚生労働大臣が基準を定めて指定する医薬品の製造販売については、当該基準への適合認証をもって承認を要さないものとされている。
- c 日本薬局方に収載されている医薬品の中には、一般用医薬品として販売されているものはない。
- d 人又は動物の身体の構造又は機能に影響を及ぼすことが目的とされている物は、すべて医薬品と定義される。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

43. 要指導医薬品に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 要指導医薬品は、患者の容態に合わせて処方量を決めて交付するものであるため、薬剤師の対面による情報の提供及び薬学的知見に基づく指導が必要である。
- b 人体に直接使用されない検査薬で、検体の採取に身体への直接のリスクを伴うもの（例えば、血液を検体とするもの）は、要指導医薬品としては認められていない。
- c 要指導医薬品には、注射等の侵襲性の高い使用方法のものも含まれる。
- d 要指導医薬品には、生物由来の原材料が用いられているものがあり、生物由来製品として指定されたものもある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

44. 毒薬又は劇薬に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般用医薬品では劇薬に該当するものはないが、要指導医薬品では劇薬に該当するものがある。
- b 劇薬の直接の容器又は直接の被包には、赤地に白枠、白字をもって、当該医薬品の品名及び「劇」の文字が記載されていなければならない。
- c 一般用医薬品で、毒薬に該当するものがある。
- d 業務上毒薬又は劇薬を取り扱う者は、それらを他の物と区別して貯蔵、陳列しなければならない。それらを貯蔵、陳列する場所については、必ずかぎを施さなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

45. 医薬品医療機器等法第50条に基づき医薬品の直接の容器又は直接の被包に記載されていなければならない事項の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 重量、容量又は個数等の内容量
- b 効能及び効果
- c 指定第二類医薬品にあつては、枠の中に「2」の数字
- d 配置販売品目以外の一般用医薬品にあつては、「店舗専用」の文字

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	誤

46. 医薬部外品に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 脱毛の防止、育毛又は除毛等の目的のために使用される物であり、機械器具等を含む。
- b その効能効果があらかじめ定められた範囲内であつて、成分や用法等に照らして人体に対する作用が緩和であることを要件として、医薬品的な効能効果を表示・標榜することが認められている。
- c ねずみ、はえ等の衛生害虫類の防除を目的として使用される医薬部外品には、直接の容器又は直接の被包に「指定医薬部外品」と表示しなければならない。
- d 薬用化粧品類、薬用石けん、薬用歯みがき類は、医薬部外品として承認されている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

47. 医薬品の販売業の許可に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 薬局の開設許可を受けた区域において一般用医薬品を販売する場合には、薬局の開設許可に加えて、店舗販売業の許可を受ける必要がある。
- b 医薬品の販売業の許可は、5年ごとに、その更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。
- c 医薬品の販売業の許可を受ければ、販売のために医薬品をあらかじめ小分けすることができる。
- d 店舗販売業、配置販売業又は卸売販売業のうち、一般の生活者に対して医薬品を販売することができるのは、店舗販売業のみである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	誤	正	正

48. 化粧品に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 化粧品の効能効果としては、「発毛促進」を表示することができる。
- b 化粧品の成分本質（原材料）については、原則として医薬品の成分を配合してはならないこととされており、配合が認められる場合であっても、添加物として使用されるなど、薬理作用が期待できない量以下に制限されている。
- c 化粧品の販売には、医薬品のように販売業の許可は必要ないが、販売開始から30日以内に都道府県知事あてに届け出を行う必要がある。
- d 化粧品を販売する店舗においては、化粧品と医薬部外品を区別して貯蔵又は陳列しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

49. 薬局における医薬品の陳列に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 第三類医薬品は、鍵をかけた陳列設備に陳列する場合又は陳列設備から1.2メートルの範囲に医薬品を購入しようとする者等が進入することができないよう必要な措置が取られている場合を除き、薬局等構造設備規則に規定する「情報提供を行うための設備」から7メートル以内の範囲に陳列しなければならない。
- b 要指導医薬品は、要指導医薬品陳列区画の内部の陳列設備、鍵をかけた陳列設備又は要指導医薬品を購入しようとする者等が直接手の触れられない陳列設備に陳列しなければならない。
- c 医薬品と化粧品は区別して陳列しなければならないが、医薬品と医薬部外品は区別しないで陳列することが認められている。
- d 一般用医薬品を陳列する場合は、第一類医薬品、第二類医薬品、第三類医薬品の区分ごとに陳列しなければならない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

50. 登録販売者の販売従事登録に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 二以上の都道府県において販売従事登録を受けようと申請した者は、当該申請を行った都道府県知事のうちいずれか一の都道府県知事の登録のみを受けることができる。
- b 登録販売者の住所地に変更が生じたときは、その旨を登録を受けた都道府県知事に届け出なければならない。
- c 登録販売者が、偽りその他不正の手段により販売従事登録を受けたことが判明したときは、都道府県知事は、その登録を消除しなければならない。
- d 登録販売者が、死亡し、又は失踪の宣告を受けたときは、戸籍法による死亡又は失踪の届出義務者は、10日以内に、登録販売者名簿の登録の消除を申請しなければならない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

51. 保健機能食品等の食品に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 栄養機能食品は、栄養成分の機能表示に関して、厚生労働大臣に届出が必要である。
- b 特定保健用食品は、健康増進法の規定に基づく許可又は承認を受けて、食生活において特定の保健の目的で摂取をする者に対し、その摂取により当該保健の目的が期待できる旨の表示をする食品である。
- c 特別用途食品は、乳児、幼児、妊産婦又は病者の発育又は健康の保持若しくは回復の用に供することが適当な旨を医学的・栄養学的表現で記載し、かつ、用途を限定したもので、健康増進法の規定に基づく許可又は承認を受け、「特別の用途に適する旨の表示」をする食品である。
- d 特定保健用食品の中には「条件付き特定保健用食品」という区分がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

52. 店舗販売業者が、インターネットを利用して特定販売を行うことについて広告をするとき、ホームページに、見やすく必ず表示しなければならない情報の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 店舗の主要な外観の写真
- b 店舗に勤務する者の名札等による区別に関する説明
- c 現在勤務している薬剤師又は登録販売者の写真
- d 一般用医薬品の陳列の状況を示す写真

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

53. 医薬品のリスク区分に応じた陳列等に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 店舗販売業者は、医薬品を販売する店舗と同一店舗で併せて、食品（保健機能食品を含む。）の販売が行われる場合には、医薬品と食品を区別して貯蔵又は陳列しなければならない。
- b 配置販売業者は、第一類医薬品、第二類医薬品及び第三類医薬品を混在させないよう配置しなければならない。
- c 店舗販売業者は、要指導医薬品又は一般用医薬品を販売し、又は授与しない時間は、要指導医薬品又は一般用医薬品を通常陳列し、又は交付する場所を閉鎖しなければならない。
- d 店舗販売業者は、指定第二類医薬品を薬局等構造設備規則に規定する「出入口」から7メートル以内の範囲に陳列しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

54. 要指導医薬品又は一般用医薬品のリスク区分に応じた情報提供等に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 薬局開設者は、薬剤師等（薬剤師、薬局開設者、医薬品の製造販売業者、製造業者若しくは販売業者、医師、歯科医師若しくは獣医師又は病院、診療所若しくは飼育動物診療施設の開設者をいう。）に販売し、又は授与する場合を除き、要指導医薬品を使用しようとする者以外の者に対して、正当な理由なく要指導医薬品を販売し、又は授与してはならない。
- b 薬局開設者が、要指導医薬品を販売又は授与する場合には、その薬局において医薬品の販売又は授与に従事する薬剤師又は登録販売者に、対面により、書面を用いて必要な情報を提供させ、必要な薬学的知見に基づく指導を行わせなければならない。
- c 店舗販売業者が、第一類医薬品を販売又は授与する場合には、その店舗において医薬品の販売又は授与に従事する薬剤師又は登録販売者に、書面を用いて、必要な情報を提供させなければならない。
- d 配置販売業者が、その業務にかかる都道府県の区域において第二類医薬品を配置する場合には、医薬品の配置販売に従事する薬剤師又は登録販売者に、必要な情報を提供させるよう努めなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

55. 薬局における特定販売に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 特定販売を行う場合は、当該薬局以外の場所に貯蔵し、又は陳列している一般用医薬品を販売又は授与することができる。
- b 特定販売を行うことについて広告するときは、医薬品の薬効群ごとに表示しなければならない。
- c 特定販売により一般用医薬品を購入しようとする者から、対面又は電話により相談応需の希望があった場合には、薬局開設者は、その薬局において医薬品の販売又は授与に従事する薬剤師又は登録販売者に、対面又は電話により情報提供を行わせなければならない。
- d 薬局製造販売医薬品（毒薬及び劇薬であるものを除く。）は、特定販売の方法により販売することができる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

56. 薬局開設者が、濫用等のおそれがあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品を販売する場合、医薬品医療機器等法施行規則第15条の2の規定に基づき、薬剤師又は登録販売者に必ず確認させなければならない事項の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 当該医薬品を使用しようとする者の氏名及び住所
- b 当該医薬品を購入しようとする者が若年者である場合にあっては、当該者の氏名及び年齢
- c 当該医薬品を購入しようとする者の性別
- d 当該医薬品を購入しようとする者が、適正な使用のために必要と認められる数量を超えて当該医薬品を購入しようとする場合は、その理由

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	正

57. 医薬品の販売方法に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 店舗販売業者が、在庫処分を主な目的に、効能効果が重複する医薬品を組み合わせ
て販売する場合であっても、購入者に対してリスク区分に応じた情報提供を十分に行
える範囲であれば適正な販売方法である。
- b 店舗販売業者は、医薬品を競売に付してはならない。
- c 一般用医薬品を懸賞や景品として授与することは、原則として認められていない。
- d 店舗販売業の許可を受けた店舗以外の出張所に医薬品を貯蔵又は陳列し、そこを
拠点として販売等に供する場合は、医薬品医療機器等法の規定に違反しない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

58. 医薬品の販売広告に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品医療機器等法第66条（誇大広告等）及び第68条（承認前の医薬品等に係
る広告）は、広告の依頼主だけでなく、その広告に関与するすべての人が対象となる。
- b 販売促進のため用いられる電子メールは、一般用医薬品の販売広告に含まれない。
- c 未承認の医薬品の名称、製造方法、効能、効果又は性能に関する広告は、許可を
受けなければ行うことはできない。
- d 販売促進のため用いられるステッカーやディスプレイなどによる店頭・店内広告は、
一般用医薬品の販売広告に含まれない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	正	正	誤

59. 医薬品医療機器等法施行規則第150条の規定により、配置販売業者又はその配置員が、医薬品の配置販売に従事しようとする区域の都道府県知事に、あらかじめ届け出なければならない事項として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 配置販売に従事する区域
- b 配置販売に従事する時間
- c 配置販売に従事する者の氏名及び住所
- d 配置販売する医薬品名及び数量

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

60. 医薬品医療機器等法に基づく行政庁の監視指導及び処分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 都道府県知事（薬局又は店舗販売業にあっては、その薬局又は店舗の所在地が保健所設置市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。以下「都道府県知事等」という。）は、必要があると認めるときは、薬事監視員に、その薬局開設者又は医薬品の販売業者が医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入り、従業員その他の関係者に質問させることができるが、従業員その他の関係者は、正当な理由なく答弁しなかったり、虚偽の答弁を行った場合には、50万円以下の罰金に処せられることがある。
- b 都道府県知事等は、薬局開設者又は医薬品の販売業者に対して、一般用医薬品の販売等を行うための業務体制が基準（薬局並びに店舗販売業及び配置販売業の業務を行う体制を定める省令）に適合しなくなった場合において、その業務の体制の整備を命ずることができる。
- c 都道府県知事等は、店舗販売業の店舗の管理者が不適當であると認めるときは、店舗販売業者に対して、その変更を命ずることができる。
- d 都道府県知事等は、薬事監視員に、その薬局開設者又は医薬品の販売業者が医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入らせ、無承認無許可医薬品、不良医薬品又は不正表示医薬品等の疑いのある物を全て収去させなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	正